



賀正

令和8年丙午

中山競馬場けやき公苑

■ 新年のご挨拶 シニアクラブ会長 宮本 信

会員の皆様、明けましておめでとうございます。ご家族皆様お揃いで良いお年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。



昨年夏は過去にない猛暑が続き、山の餌不足で「熊騒動」が各地で頻発しました。他方、コメは豊作とされていますが価格は高騰のまま「令和の米騒動」もいまだ落ち着きを見せていません。皆様の毎日の暮らしはいかがでしたでしょうか。

▶ ところで、去年は国内の政治情勢が大きく変化した年でもありました。

7月の参議院選挙での与党の過半数割れで、石破首相は9月に退陣表明をしました。

10月の自民党総裁選で高市総裁が誕生し、それに伴い26年続いた公明党との連立が解消され、その後維新との連立政権設立合意で、初の女性内閣総理大臣「高市総理」誕生につながりました。

元来タカ派的主張をしてきた高市総理は、とりわけアジア外交に懸念がありましたが、案の定11月7日の台湾有事答弁で、中国の態度硬化を招き日中関係は最悪な状況となっています。

このような状況でも高市政権は依然高い支持率を保っています。台湾有事答弁に関しても SNS 上では「質問した方が悪い」との意見が飛び交うなど、おかしい状況も見受けられますが、この背景には7月の参院選での参政党の躍進に見られるよう

に20代から30代の若い世代における保守的・ナショナリズム的思考の台頭があるように思います。各国が自国優先の考えを強めている中、日本もタカ派的主張が支持を拡大していくのに不安を覚えるのは私だけでしょうか？

▶ 一方、日本人として希望を持たせてくれたのはアスリート達の活躍です。

MLBにおける日本人選手の奮闘には心躍らせられました。ドジャースのワールドシリーズ連覇は大谷翔平選手・山本由伸投手・佐々木朗希投手の活躍なくしては実現できなかったでしょう。山本投手の連投も凄かったですが大谷選手の打撃も素晴らしかった。

私事で恐縮ですが、日本時間10月18日に行われたナ・リーグ優勝決定戦第4戦で大谷選手は3本のホームランを放ちましたが、当日は私の70歳の誕生日でもあり、一生忘れられない日となりました。



今年はサッカーワールドカップの年です。去年は世界最速で本大会出場を決め、親善試合とはいえブラジルに初勝利を収めるなど、本大会への期待も高まっています。シニアクラブ会員の皆様とともに応援していきたいと思っています。

最後にシニアクラブ諸行事への皆様の積極的なご参加をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

■ ネコ目(ねこもく)

猫の目ではなく生物学上の分類の話です。ネコ目は非常に小さくくりとなっていて、肉食の哺乳類がこの分類に属します。犬はイヌ科、猫はネコ科、熊はクマ科としてこのネコ目の中にひとくりされています。こうしてみると猫も熊も親戚同士ということになります。少し遠い感じはするけれど…。

12月23日の Online 会合で熊騒動の話からパンダに話が展開しました。パンダは熊猫と書きます。

熊と言えば熊本県のキャラクター「クマモン」や「森のくまさん」など優しく愛らしいイメージが強い動物です。しかし「熊騒動」の熊は別でした。というよりそれが本性なのですが、どんぐりや果実だけ食べているのではなく、肉食もする猛獣です。

一方、パンダの性格はどうなのでしょう。一般に性格は温厚と言われており、目の周りが黒く縁どられてきわめて愛らしい顔をして、たち振る舞いや行動もひょうきんなどころがあり人気者となっています。その顔立ちや体つきなどから太った猫のように見えて熊猫となったのでしょう。



肉食とくぐられたネコ目の中で、パンダは笹や竹を主食としていて動物を襲って食べるということはありません。ネコ目の中では例外的な扱いとなっているようです。たまには昆虫などの小動物を食べることもあるそうですが。

かつて「食肉目」と言われていた分類が、現在日本の教科書では「ネコ目」と表記するようになったとのこと。猫が肉食獣の総代表となっていることを猫自身は全く意識していないでしょうが、人は身近な猫を偉大な存在と感じなければなりません。

■ 地上最強の生き物クマムシ

続いて登場するのはクマムシです。

こちら「クマムシ目」としてひとくりされる分類上大きな地位を占める生き物です。ネコ目と同様「目」に位置づけられる存在です。私、田代が20年も昔、沖縄の離島で会った若い研究者から初めてこの名前を聞きました。

写真で見るように一見して形は熊に似ていますが、体長は1mmにも満たない小さな生き物です。これが地上最強の動物で、高温でも低温でも真空の宇宙空間でも生命を維持できるとのこと。

このような生物から人の将来の生き方を学ぶとのことで、研究者たちはクマムシ発見のために砂浜をほじくり返していました。



■ 令和8年(2026年)丙午(ひのえうま)

今年の干支は「丙午」。古くからこの年は火事が多く、生まれた女の子は気性が荒いといわれてきました。丙は「ひのえ」と読むように「火」に関連し、午も時刻は真昼の陽を示し「火+陽=火事が多い」という話になったようです。そして「この年に生まれた女の子は気性が荒い」という迷信になっているのかもしれませんが。しかしなぜ男の子ではなく女の子なのでしょうか。現在、そんなことを言ったら「差別!」と叩かれること間違いありません。



60年前1996年(昭和41年)の丙午を調べたらこの様なグラフがありました。赤線は合計特殊出生率を示していますが出生数は前年比46万人減の136万人でした。しかし近年少子化傾向が進み昨年(2025年)推計値が66.8万人であることをみると倍以上の開きがあり、当時の出生数は高度成長期を迎える日本の力を示していました。

今年の丙午はもう迷信など信じる人はいないと思いますが、国難と言われる人口減少問題に輪をかけることの無いよう願うばかりです。

このグラフで気になることが一つ、丙午の年に生まれた男の赤ちゃんの比率が高いことです。

■ 活動報告

▶ 12月4日(木)下山静香コンサート

<http://jvc-senior.com/20251205enom.pdf>

▶ 12月6日(土)ブラ散歩高円寺

<http://jvc-senior.com/20251207burasan03.pdf>

▶ 12月23日(火) Online 会合

<http://jvc-senior.com/20251223online.pdf>

それぞれご確認ください。



■ 事務局から

▶ 1月23日(金)に「青木弘武トリオコンサート」

が開催されます。<http://jvc-senior.com/20260123jazz02.pdf>

上記 Online 会合でも詳細が紹介されています。ふるってご参加ください。

▶ 今年もいろいろな企画をご案内します。皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

事務局長 田代 周